

## 防災問題研究会

### 第7回災害対策本部のシミュレーション演習と情報トリアージ

今回は、オフィスの直下で震度6強の地震が発生したという想定で、オフィス内に立ちあげた災害対策本部の動きを、発生から60分間演習した。

38名が参加者し、5つの班に分かれ、それぞれ災害対策本部の本部長、消火班・救護班・広報班・電算部班などの責任者となり、地震発生と同時に次々とリアルタイムに入ってくるオフィス内の被害や負傷者に関する情報を素早くとりまとめ、全体を把握すると共に、職場への的確な指示を出す訓練を行った。しかし、演習に入ると、いつものように、消火器だけで簡単に鎮火し、三角巾を巻けば手当が完了するという従来の訓練に慣れた参加者の想定を超えたシナリオが展開されるため、どの班もパニックに陥り、全体を把握することも、的確な指示を出すことも出来なくなった（意識のない負傷者や、大量に出血した負傷者の発生、救急車の出動拒否、鎮火できない隣のビル火災、余震の発生、スプリンクラー作動など）。



挨拶する加藤副会長(防災問題研究会代表幹事)

毎回、参加者より被害情報をどう扱うべきかという課題が提起されるため、今回は「情報トリアージ」についても演習した。これは、情報の優先づけをどの様に行うか、不確かな情報をどう扱うかについて、組織内でコンセンサスをつくるための演習であり、有事に備えて普及させておきたい演習のひとつであるため、今後とも続けて行く。